

# 横隈上ノ原上遺跡6

—福岡県小郡市横隈所在遺跡の調査報告—

小郡市文化財調査報告書第355集

2023

小郡市教育委員会

## 序

本書は、小郡市横隈における民間開発に先立つて小郡市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書です。

今回発掘調査を行った横隈上ノ原上遺跡は、近年相次いだ民間開発に先立つ埋蔵文化財発掘調査の結果、弥生時代・古代を中心とする複合遺跡であることがわかりつつあります。

本書では、横隈上ノ原上遺跡の西端部分の状況を確認することができ、この地域の歴史を知る上で貴重な資料を得ることができました。本書の成果が、横隈地区のみならず当時の小郡周辺における社会を解明する一助になれば幸いです。

最後になりましたが、調査、整理にあたりご協力いただいた地権者様をはじめ、発掘調査に従事された地元の方々に心から感謝いたします。

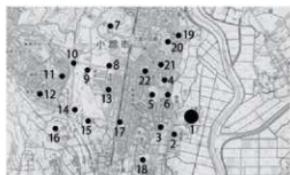
令和5年3月31日

小郡市教育委員会

委員長 秋永晃生

## 例言

1. 本書は、小郡市横隈地内における共同住宅建設に先立つて、小郡市教育委員会が令和3年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の記録である。
2. 本書に掲載する遺構の写真は西江が行い、空中写真は（有）空中写真企画に委託した。
3. 本書に掲載する遺構の実測、遺物の復元・実測・製図には、担当者の他に、久住愛子、佐々木智子、宮崎美穂子、永富加奈子ら諸氏に多大なる協力を得た。
4. 遺構図中の方位は座標北を示し、図上の座標は国土調査法第II座標系に則っている。
5. 本書で用いた標高は東京湾平均海水面（T.P.）を基準としている。
6. 本書の遺物、実測図、写真は小郡市埋蔵文化財調査センターにて保管している。
7. 本書の執筆および編集は西江と協議して柏原孝俊が行った。



1. 横隈上ノ原上遺跡 2. 横隈上内須遺跡 3. 横隈上内須道路2～6  
4. 横隈弧保存路 5. 横隈弧保存路7 6. 横隈北洋田遺跡  
7. 三沢道路 8. 二三澤ノ原遺跡 9. 三沢公園道路  
10. 三沢ハサウケ宮道跡 11. 一口田路 12. 大松尾口道路  
13. 三沢北中尾道路 14. 北半田道路 15. 半田ノ道路  
16. 三沢東原道路 17. 横隈山道路6-7 18. 三沢小学校  
19. 三沢ノ森道路 20. 横隈北洋田道路 21. 横隈道路  
22. 横隈山古墳

第1図横隈上ノ原上道路6周辺道路分布図 (S=1/50,000)



第2図横隈上ノ原上道路過去の調査地点位置図 (S=1/5000)

## 第1章 調査にいたる経過と組織

### 1. 調査にいたる経過

今回の開発事業に関する当該地の事前調査は、令和3年10月27日付で「埋蔵文化財の有無について（照会）」（事前審査番号21111号）の申請が、地権者から提出されたことに始まる。これを受けて小都市教育委員会は令和3年11月11日に確認調査を実施し、掘削予定範囲の全面に遺跡が存在することを確認した。その後、本調査に向けての様々な協議を経て、令和4年1月4日付で埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結した。

### 2. 調査の経過

調査の対象としたのは、建物建設部分で、実施面積は240m<sup>2</sup>である。現地調査は令和4年2月2日に着手し、令和4年3月4日に終了した。主な経過は以下のとおりである。

令和4年2月2日 表土剥ぎ開始、複数のピットを調査対象地全面で確認。

2月14日 作業員を投入して、東側から西側に向けて掘削開始。

2月21日 空中写真撮影

2月24日～25日 掘削・図面作成等現地作業終了

3月3日～4日 埋め戻し開始、調査終了。

### 3. 調査組織

令和3年度の横隈上ノ原上遺跡6における発掘調査に関する組織は以下のとおりである。

|          | 【令和3年度】       | 【令和4年度】      |
|----------|---------------|--------------|
| 小都市教育委員会 | 教育長 秋永晃生      | 秋永晃生         |
| 教育部      | 部長 山下博文       | 藤吉宏          |
| 文化財課     | 課長 柏原孝俊       | 杉本岳史         |
|          | 係長 杉本岳史       | 山崎頼人         |
|          | 技師 西江幸子（調査担当） | 柏原孝俊（報告書担当）  |
|          |               | 三津山靖也（報告書担当） |

## 第2章 位置と環境

横隈上ノ原上遺跡6は、小都市横隈字出口24番1、25番1に位置し、市の北西部に広がる通称三国丘陵から、急激に下がった宝満川沿いの低地へと至る標高約20m前後の低台地上にある。今回の調査対象地は周知の埋蔵文化財抱蔵地である横隈上ノ原上遺跡の南西端に位置している。これまで遺跡は、5次にわたる調査が実施されている。遺跡の北側（1次調査・5次調査）では、弥生時代後期～古墳初頭の住居群や周溝状遺構、古墳時代後期を中心とする住居群が広がり、南側（3次調査）では弥生時代中期後半を中心とする区画溝や周溝状遺構、6世紀末～7世紀初頭を中心とする住居群が広がる。また南東側（4次調査）では、弥生時代・古代・中世の遺構が広がり、東に向かって一段低くなっている。周辺では、弥生時代の墓域を横隈上内畑遺跡や横隈孤塚遺跡で、古代の集落域を横隈仕解田遺跡や横隈孤塚遺跡で確認しているが、いずれも三国丘陵上に立地している。横隈上ノ原上遺跡は、三国丘陵から宝満川までの間に広がる低台地での集落の展開や広がりを考えるうえで、非常に重要な遺跡である。

### 第3章 調査の内容

横隈上ノ原上遺跡6は、周知の埋蔵文化財包蔵地の南西端に位置する。調査面積は東西約24m、南北約10mの範囲で、出土遺構は、溝2条、土坑1基、ピット多数などが検出された。遺物は、ピットより数点出土したのみである（表1）。いずれも実測しえない細片のみで詳細な時期を特定できるものはなかった。

#### 1. 溝

##### 1号溝（図版1、第4図）

調査区東端に位置し、複数のピットを切り、東側は調査区外へと延びる。幅0.4m、長さ4.90m、深さ最大10cmを測る。断面は逆台形を呈し、土層は単層である。遺物は出土していない。

##### 2号溝（図版1、第4図）

調査区北東側に位置し、複数のピットを切り、北側は調査区外へと延びる。幅0.49m、長さ3.0m、深さ最大10cmを測る。断面は逆台形を呈し、土層は単層である。遺物は出土していない。

#### 2. 土坑

##### 1号土坑（図版1、第4図）

調査区北東側に位置し、遺構の大半は調査区外である。平面プランは、縦 $0.42+\alpha$ 、横 $3.0m+\alpha$ 、深さ最大15cmを測る。土層は水平堆積を示している。遺物は出土していない。

#### 3. ピット（図版1、第3図）

約300基のピットを検出し、うち25基から遺物が出土した。検出したピットは北東側に向かって密度が高く、北西から南東に向かっての分布傾向がみられた。ピットの深さは10cm前後のものが大半を占めているが、深さ20～30cmのものも50基程度確認できた。全体的にピットの深さが浅く、建物の痕跡を検討するには至らなかった。

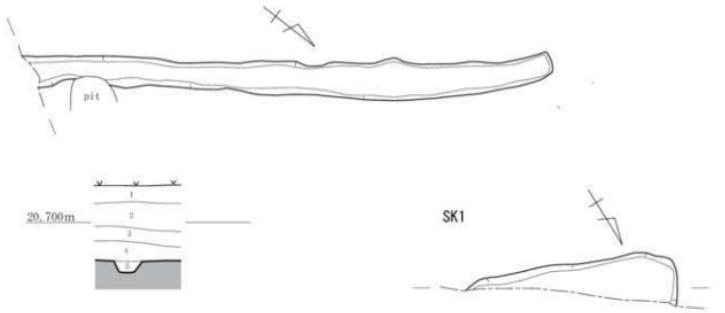
表1 各ピットから出土した遺物の内容

| No. | 出土遺物        | No. | 出土遺物        | No. | 出土遺物        |
|-----|-------------|-----|-------------|-----|-------------|
| P1  | 土師器(器種不明1)  | P10 | 弥生土器(器種不明1) | P18 | 弥生土器(器種不明5) |
| P2  | 土師器(器種不明1)  | P11 | 弥生土器(甕口縁片1) | P19 | 弥生土器(器種不明1) |
| P3  | 土師器(器種不明1)  | P12 | 弥生土器(器種不明1) | P20 | 土器片(器種不明1)  |
| P4  | 土器(器種不明1)   | P13 | 土器(細片1)     | P21 | 弥生土器(器種不明1) |
| P5  | 土師器(器種不明1)  | P14 | 輪羽口片1       | P22 | 弥生土器(器種不明1) |
| P6  | 須恵器(器種不明1)  | P15 | 弥生土器(器種不明1) | P23 | 弥生土器(器種不明2) |
| P7  | 弥生土器(器種不明3) | P16 | 弥生土器(甕口縁1)  | P24 | 弥生土器(器種不明1) |
| P8  | 弥生土器(器種不明3) | P17 | 土師器(器種不明1)  | P25 | 須恵器(甕片1)    |
| P9  | 弥生土器(器種不明3) |     |             |     |             |

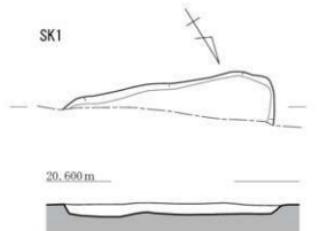


第3図 横隈上ノ原上道路6 全体図 ( $\times = 1/100$ )

SD1



SK1



SD2

第4図 1・2号溝、1号土坑実測図 ( $\times = 1/40$ )

#### 第4章　まとめ

横隈上ノ原上遺跡6で検出した主な遺構は、溝2条、土坑1基、ピット多数である。遺構は、全体的に深さが浅く、地権者さんの話によると芋畑として継続的に使用されてきたことから、後世の活動によって削平を受けた可能性が想定される。溝と土坑からは出土遺物がないもののピットを切っていることから、ピットの時期よりは新しい時代のものと考えられよう。多数のピットは、北東側に向かって密度が高く、北西から南東に向かって並ぶ傾向がみられ、その一部では弥生土器片が出土したピットが密集している箇所もみられた。本調査地点の北東側には、弥生時代後期～古墳時代初頭を中心とする集落域が確認されていることから、集落を守る柵列の可能性を当初想定したが、各ピットの深さがいずれも10cm未満と浅いことから断定は現状では困難である。

一方、本遺跡が所在する地形では、南側と西側が本調査地点より急激に一段低くなってしまい、西側・南側に向かって遺構密度が低くなることを踏まえると、遺跡が所在する低地の南端部に位置することがわかった。さらに、横隈上ノ原上遺跡4において遺跡が所在する低地の東端部が確認されていることを踏まえると、遺跡は東西方向に約300mの範囲で広がっていることがわかる。遺跡の広がる時期も、人口増大や活動の活発化により分村の傾向がみられる時期であることから、人々の活動が丘陵から低地にも広がったことがうかがえよう。今後、調査成果が蓄積されることにより、三国丘陵と宝満川に挟まれた低地における土地利用の様相が解明されることに期待したい。



全景



SD1（西から）



SK1



SD2（南から）

## 報告書抄録

|                |   |            |                   |                    |                               |                    |            |
|----------------|---|------------|-------------------|--------------------|-------------------------------|--------------------|------------|
| ふりがな           | よこぐまうえのはらうえいせき 6  |            |                   |                    |                               |                    |            |
| 書名             | 横限上ノ原上遺跡 6  |            |                   |                    |                               |                    |            |
| 巻次             |   |            |                   |                    |                               |                    |            |
| シリーズ名          | 小都市文化財調査報告書   |            |                   |                    |                               |                    |            |
| シリーズ番号         | 第355集   |            |                   |                    |                               |                    |            |
| 編著者名           | 西江幸子・三津山靖也・柏原孝俊   |            |                   |                    |                               |                    |            |
| 編集機関           | 小郡市教育委員会  |            |                   |                    |                               |                    |            |
| 所在地            | 〒838-0198 福岡県小郡市小郡 255-1 ☎0942-72-2111  |            |                   |                    |                               |                    |            |
| 発行年月日          | 2023年3月31日  |            |                   |                    |                               |                    |            |
| ふりがな<br>所収遺跡名  | ふりがな<br>所在地   | コード<br>市町村 | 北<br>緯<br>遭跡番号    | 東経                 | 調査期間                          | 調査面積               | 調査原因       |
| 横限上ノ原上<br>遺跡 6 | 福岡県<br>小郡市<br>横限  | 40216      | 33°<br>25'<br>43" | 130°<br>34'<br>10" | 2022.02.02<br>~<br>2022.03.04 | 240 m <sup>2</sup> | アパート<br>建設 |
| 所収遺跡名          | 種別  | 主な時代       | 主な遺構              |                    | 主な遺物                          | 特記事項               |            |
| 横限上ノ原上<br>遺跡 6 | 集落  | 弥生時代<br>古代 | 土坑、溝、ピット          |                    | 弥生土器片<br>土師器片<br>須恵器片         |                    |            |
| 要約             | 横限上ノ原遺跡 6 では、調査地点の南側と西側が急激に一段低くなっています。また西側・南側に向かって遺構密度が低くなることから、遺跡が展開する低台地の南西端部に位置することが推定される。さらに、従前の調査から本調査地点から東方向に約 300m、北側に 200m 以上の範囲で遺跡が広がっていることが推定される。 |            |                   |                    |                               |                    |            |

横限上ノ原上遺跡 6  
小都市文化財調査報告書第355集  
2023年3月31日  
発行 小郡市教育委員会  
福岡県小郡市小郡 255-1  
印刷 片山印刷(有)